

## 平成29年度の研究計画について

ゆり支援学校道川分教室

### 1 研究主題 人との関わりを広げる授業づくり～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～

#### 2 主題設定の理由

分教室の児童生徒は、それぞれ思いをもち、周囲からの働き掛けに自分なりの方法で気持ちを表している。しかし、そこで生じた思いを周囲の人が分かるように伝えることが難しいため、私たち教師は児童生徒をよく観察し、心の動きや感じ方、思いに気付き、受け止め、思いに寄り添いながら応じる関わりを積み重ねてきた。

これまでの取組から、分教室の児童生徒の目指す姿は、自分の気持ちを表情や発声、身体の動きで表す姿、好きなことや得意なことに自分から楽しんで取り組む姿であることを確認した。学校生活の様々な活動を通して、周囲からの働き掛けを受け止め、感じた気持ちを表し、自分の思いを伝え、関わろうとする力を育むことが、卒業後の豊かな生活につながると考える。

これまで分教室の授業づくりにおいては、児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を大切に、授業改善に取り組んできた。昨年度は、朝の活動・朝の会を取り上げ「自分の気持ちを表し、伝える姿」に焦点を当てて取り組んだ。朝の活動・朝の会は毎日取り組む活動であり、児童生徒と教師の一对一の信頼関係を基盤にし、見通しをもちながらグループの友達や教師と継続的に活動することで、グループの学習に安心感をもち、自分のやることが分かり見通しをもって取り組む姿が見られた。見通しがもてるようになると友達への関心が高まり、視線を向けたり、発声で呼びかけたり、手を伸ばして触れようとしたりする感情の表出や自発的な動きが増えた。

今年度は昨年度の成果を生かし、「自分の気持ちを伝える姿」に焦点を当て、卒業後の豊かな生活を送るためにつけたい力を見据えた授業実践を行っていきたい。今年度は児童生徒数が減少し、病室・病棟から出ることができない児童生徒の割合が増えた。朝の会・朝の活動のグループも再編成が必要となり関わりのもち方に更なる工夫が必要となった。そこで、昨年度に引き続き朝の活動・朝の会を検証場面とし、毎日の継続的な工夫と取り組みで友達や教師との関わりを培い、自分の気持ちを表し伝えることが出来るようにすることで、人との関わりがより広がるのではないかと考えた。

児童生徒の実態把握や目標設定、指導内容、そして個々の人との関わりを多角的、多面的に捉え、一人一人の変容を共通理解しながら評価を行い、観点を意識した授業づくりや授業改善に取り組むことで、人との関わりがより広がるのではないかと考え、本主題を設定した。

#### 3 研究仮説

「自分の気持ちを表し、伝える姿」を目指した実践において、児童生徒にとって分かりやすい状況づくりである4つの観点到に沿って指導内容・方法の工夫、評価、改善を積み重ねることで、人との関わりが広がり、自分らしく豊かな生活を送ることにつながるのではないかと考えた。

#### 4 研究計画

研究期間は2年とする。

##### ○1年目（平成28年度）

「自分の気持ちを表す姿」に焦点を当て、児童生徒の実態把握及び「人と関わる姿」に関する共通理解を図る。また、目標、指導内容、題材構成の検討、4つの観点到に基づいた授業の評価を行いながら、人との関わりを広げる授業づくりに必要な4つの観点到に沿った支援を整理する。

##### ○2年目（平成29年度）

1年目で取り組んだ「自分の気持ちを表す姿」を基に、周囲の人を意識した関わりへと広がるように、「自分の気持ちを伝える姿」に焦点を当て授業づくりを行い、児童生徒の変容や授業実践の積み重ねを通して、人との関わりを広げる授業づくりができたのかを評価する。

## 5 研究方法

### (1) 授業づくり

- ・朝の活動・朝の会を検証場面とし、授業づくり検討会において、目標、指導内容、題材構成等の検討をする。
- ・集団活動に直接参加することが難しい児童生徒の「人との関わり」や児童生徒一人一人にとっての「伝える姿」について検討し、共通理解を図りながら授業づくりを進める。
- ・昨年度導入した重度・重複障害児のコミュニケーションに関するアセスメントチェックリストを活用し、複数の支援者によるアセスメントを実施し、目標や指導内容の設定に生かす。
- ・公開授業研究会、校内授業研究会を実施し、外部専門家や校外からの参観者、校内職員等による評価を得て、より専門的、多角的に指導内容を検討する。
- ・昨年度作成した授業評価記録用紙について、日常的に活用し授業改善に生かしていけるよう、様式や活用方法を工夫する。

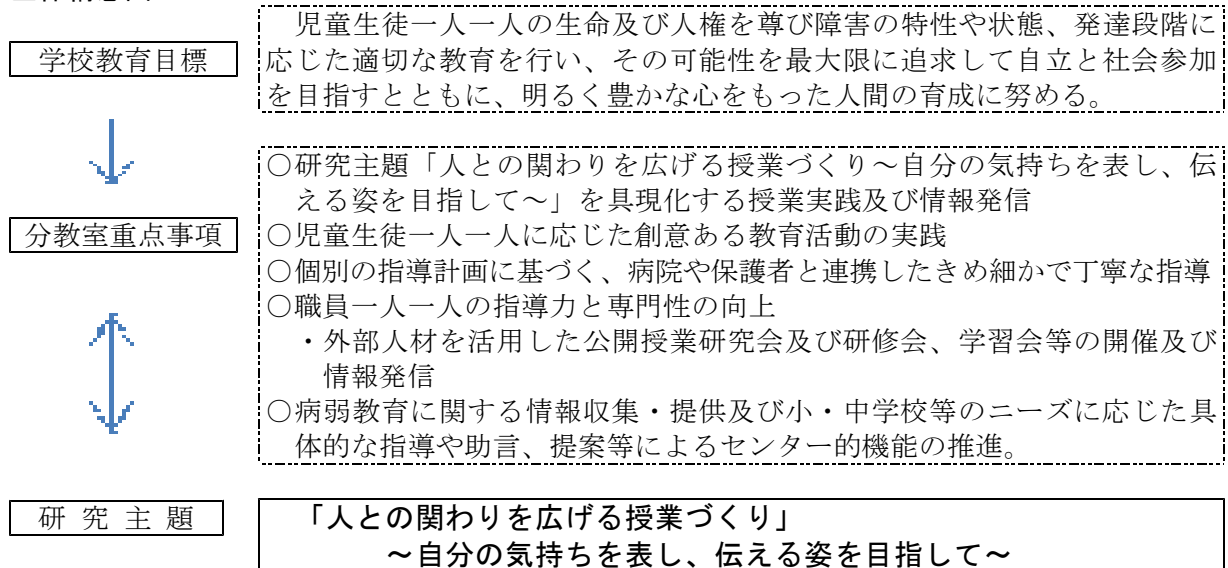
### (2) ケース検討会(児童生徒一人につき年3回実施する)

- ・5月～個別の指導計画を基に児童生徒一人一人の実態、目標及び「自分の気持ちを表し、伝える姿」について共通理解を図る。
- ・9月～中間評価を行い、これまでの支援が適切であったかを検証することで、成果・課題から改善点を見出し次時に生かす。
- ・2月～児童生徒の様子や一年間の変容を基に評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討する。

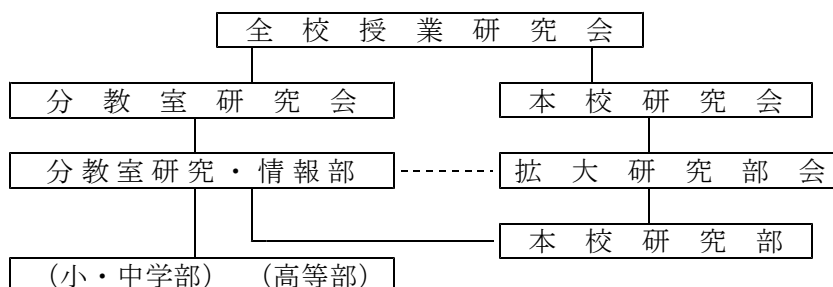
### (3) 自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・校内外の人材を活用しながら、自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に役立てる。

## 6 全体構想図



## 7 研究組織



## 授業づくりの進め方

### 1 授業構想

#### ○授業づくり検討会

- ・研究対象の授業（朝の会・朝の活動）において、指導目標、指導内容、題材構成の検討、評価をする。
- ・年間5回、1階・2階のグループ毎に、次の予定で実施する。

#### ①授業づくり検討会Ⅰ（4月）

- ・朝の活動・朝の会の「関わりを広げる～自分の気持ちを伝える姿を目指す」あり方・内容について話し合い、方向性を定める。→新しいグループでの授業実践へ

#### ②アセスメントチェックリストについて学年・病棟毎をベースとしたグループで確認し、第2回授業づくり検討会で「気持ちを伝えるために伸ばしたいこと」を共通理解する。

#### ②授業づくり検討会Ⅱ（6月1日）

- ・児童生徒の実態、目標、手立ての共通理解を図る。  
指導目標や指導内容、題材構成の確認、検討をする。

担任の準備物：ケース検討会Ⅰの記録、今年度の個別の指導計画、  
コミュニケーションに関するアセスメントチェックリスト

参加者の準備物：研究対象の授業の年間指導計画

- ・これまでの実践を受け授業づくりを再検討し、改善を図る。

↓

- ・指導主事計画訪問（7月3日）に向けた指導案作成

#### ③授業づくり検討会Ⅲ（7月13日）

- ・指導主事計画訪問を受けた成果と課題の確認。2学期に向けた授業改善の検討。

#### ④授業づくり検討会Ⅳ（9月21日）

- ・前期の成果と課題の共通理解を図り、後期の授業改善に生かす。
- ・公開授業研の評価を受け、11月の校内授業研に向けた改善を検討

担任の準備物：ケース検討会Ⅱの記録

#### ⑤授業づくり検討会Ⅴ（12月11日）

- ・今年度の成果と課題の整理及び検証、児童生徒の変容の共通理解を図る。

### 2 授業実践

#### ○日々の授業

#### ○授業研究会 ～ 指導案作成 → 指導案検討会 → 事前授業研 → 授業研究会

- ・東北病連大会発表 7月27日（木）（山形）

- ・指導主事計画訪問 7月3日（月）～朝の活動・朝の会授業提示

- ・公開授業研究会 9月13日（水）事前授業研究会あり  
～朝の活動・朝の会：1階グループの授業提示

- ・校内授業研究会 11月上旬（病棟交流制限等がないうち）に実施したい。  
～朝の活動・朝の会：2階グループの授業提示

### 3 評価

- ・日々の評価 ～ 授業評価記録用紙の活用

- ・授業研究会における評価 ～ 授業評価記録用紙の活用

### 4 授業改善

- ・授業評価記録用紙や研究協議等の指導後の評価を基に、次時の授業に向けての手立て等の検討

- ・授業づくり検討会における検討、見直し、授業改善へ

